

五の池 小屋だより

酔っぱらいの話

うまい酒を飲もうと山に登る人は多い。山に登る時は荷物は軽い方が当然楽である。にもかかわらず、酒という重たい液体をザックに入れて、「山はエライ」とか「もう二度と山なんか登らねー」とかぶつぶつ文句を言いながら山に上がっていく。

とある猛暑の夏、小屋のビールの在庫がなくなり、そのことを知ったお客さんの落胆ぶりはひどかった。まるで大学受験の合格発表で自分の番号がなかったかのような、そんな落胆ぶりであった。全く何をしに山に来ているのか。困ったものである。

小屋の中の棚の上にはお客さんから差し入れて頂いた酒がずらり何十本と並んでいる。まるでポトルキープでも出来そうな量である。そして今年から新メニューとして始めた自家製で作った薫製のアマゴやソーセージ、チーズなどが壁からぶら下がっている。酒のつまみには本当に最高。

ある日それらを食べやすいサイズにナイフで切っていると、スタッフの一人が「小屋番！ここは山小屋ですよ。居酒屋でもやるつもりですかー」などちょっとしかめ面で聞いてきた。「そこかもなー」と酔っぱらいながら答えた僕。どっしよつもない酔っぱらいの話である。とほほ。